

JSCA技術委員会・第22回報告会の報告

Report on the 22nd Session of JSCA Technical Committee

(一社)日本建築構造技術者協会 技術委員会

技術委員長 太田俊也 幹事 諸伏勲

技術委員会では報告会という形式で、会員へ最新の技術情報と委員会活動の内容を公開している。令和6年度は2回の報告会を開催する予定で、6月3日に第22回報告会を開催した。本報告会では、応答制御部会、基礎地盤系部会の2つの部会より話題提供を行った。

応答制御部会からは、「極大地震に対する鋼構造建築物の設計例 -8階建て事務所ビルへの制振構造・免震構造の適用-」を紹介した。近年、性能設計の普及に伴い、地震時の層間変形角を制御する考え方(変形制御)が広く行き渡ってきている。時刻歴応答解析を用いずに設計することが一般的である中低層建物の地震時層間変形を評価することを目的として、限界耐力計算(平12建告1457号)、免震告示(平12建告2009号)および、エネルギーの釣合いに基づく耐震計算(平17国交告631号)を用いた設計例を提示し、JSCA性能設計メニューを引用した建物の耐震性能の評価結果を示した。

意見交換では、各設計手法の留意点に関する質問などが挙げられた。

基礎地盤系部会からは「設計者のための設計ハンドブック」と題して、設計者へ役立つ設計情報の提供を目的として作成中である、①基礎形式に応じた地盤調査内容、各調査・試験の概要や、地盤調査を計画する上での留意点などを示した「地盤調査ハンドブック」、②杭頭接合方法の概要・変遷、各杭頭接合部の設計方法・設計例、工法紹介などを示した「杭頭接合ハンドブック」、③各地域の適合性判定機関における杭・基礎の運用状況や、法的要求事項の整理内容を示した「各行政等の杭・基礎の扱いハンドブック」を紹介した。また、「各行政等の杭・基礎の扱いハンドブック」については、本年度中にJSCA HPへ公開する予定である旨を示した。

意見交換では、洪積層の液状化判定結果の考え方に関する意見交換などが行われた。

本報告会は、第16回報告会(2019年12月開催)から約5年ぶりに、けんぽプラザにて対面で実施し、報告会後の懇親会も開催することで、貴重な交流の機会となった。意見交換の際には、参加された会員の皆様から貴重なご意見やご要望をいただくことができ、技術委員会の今後の活動に役立てることができると思っている。

令和6年度の2回目となる第23回報告会は2024年2月頃を予定している。次回も、多くの方々と意見交換できることを楽しみにしている。

